

# カラスガレイ 北西大西洋

Greenland halibut *Reinhardtius hippoglossoides*



(Fisheries and Oceans Canada)

## 管理・関係機関

北西大西洋漁業機関 (NAFO)

(注) NAFO 条約海域に南北 2 系群あるが、本稿は日本 TAC 枠がある南系群に関する情報。

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：雄 90 cm・7.9 kg、雌 109 cm・14.5 kg。  
体長は下顎先端～尾鰭基底、体重は全重量（代表的な成長式及び体重・体長関係に基づく）。
- 寿命：最大寿命は雄 17 歳、雌 33 歳（研究例）。資源評価では 10 歳以上を Plus group として取り扱う。
- 性成熟年齢：雄 9～10 歳、雌 12～13 歳（50% 成熟年齢）。
- 産卵期・産卵場：周年（夏・秋に多い）。グランドバンク・フレミッシュバス（NAFO 海域 3LM）。
- 索餌期・索餌場：秋（10～11 月）に活発。グランドバンク・フレミッシュバス（NAFO 海域 3LM）。
- 食性：魚類（タラ、ゲンゲ、シシャモ、アカウオ等の幼魚）、甲殻類（エビ）、頭足類（イカ）等。
- 捕食者：シャチほか。

## 利用・用途

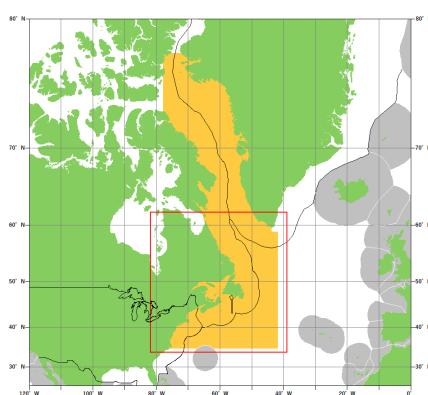
食用（生鮮・冷凍）で販売され、惣菜（煮つけ、ムニエル、ソテー、唐揚、刺身）や寿司ネタとして利用。

## 漁業の特徴

主に着底トロールで漁獲される。NAFO 発足以降 44 年間（1979～2022 年）の平均漁獲量の多い国はカナダ（38%）、スペイン（28%）、ポルトガル（14%）、日本（5%）、ロシア（5%）でこの 5 か国で全体の 91% を占める。

## 漁獲の動向

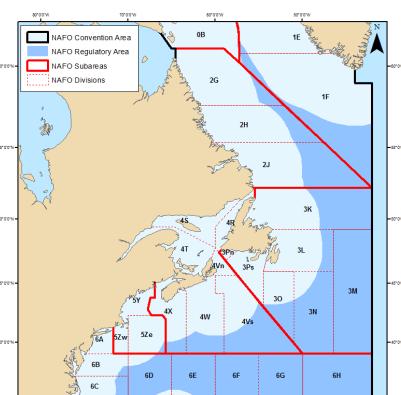
本格的な漁業が開始されたのは 1964 年からで、漁獲量は 4,300 トンから 7 年後の 1970 年に 3.7 万トンとなり 9 倍近く急増した。その後 1978～1980 年、1992～1994 年及び 2000～2003 年にあった 3 回の漁獲量ピーク期（平均漁獲量各 3.5 万、5.4 万、3.2 万トン）以外は、減少傾向が続き現在に至っている。最近 5 年間（2018～2022 年）の平均漁獲量は 1.5 万トンで、3 回目のピーク時の漁獲量の 48% と低いレベルにある。



NAFO 条約海域＝管轄海域（空色）+EEZ（オレンジ色）

(注1) カラスガレイには南北 2 系群あり、本稿では日本 TAC 枠のある南系群の情報をまとめた

(注2) 赤枠内の詳細は右図



NAFO 条約海域南部の統計海域

南系群操業域 = カナダ EEZ 内（海域 2+3K）+ 日本（ほか加盟国 TAC 枠のある公海域（3LMNO））

## 資源状態

最新の資源評価は2020年6月のNAFO科学理事会で実施された。本資源評価の目的は、TACの決定に使用されている管理戦略評価(MSE)のパフォーマンスをレビューすることである。資源評価はMSEのオペレーティングモデル(OM)で使用されている統計的年齢別漁獲尾数モデル(SCAA)及び拡張型SCAA状態空間モデル(SSM)により実施された。本資源評価はMSEのOMで合意されたベースケースを用いて実施された。両者による資源評価結果に基づく神戸プロットを図に示した(1975~2019年)。Bは漁獲対象(5~9歳)資源量。2019年の資源状態は両モデル共にイエローゾーンに位置し、乱獲状態であるが( $B_{2019}/B_{MSY} = 0.60 \sim 0.68$ )、過剰漁獲ではない( $F_{2019}/F_{MSY} = 0.52 \sim 0.95$ )。

## 管理方策

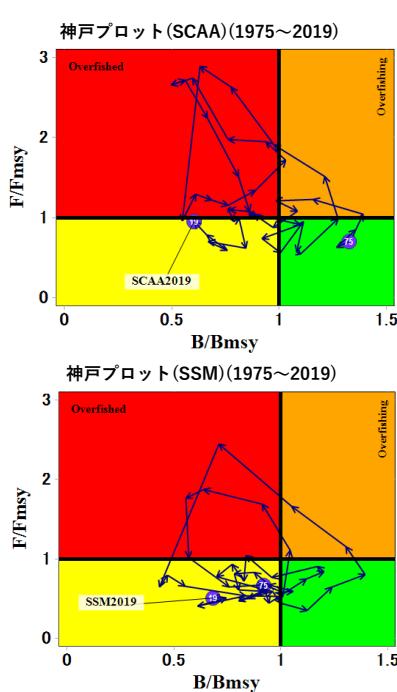
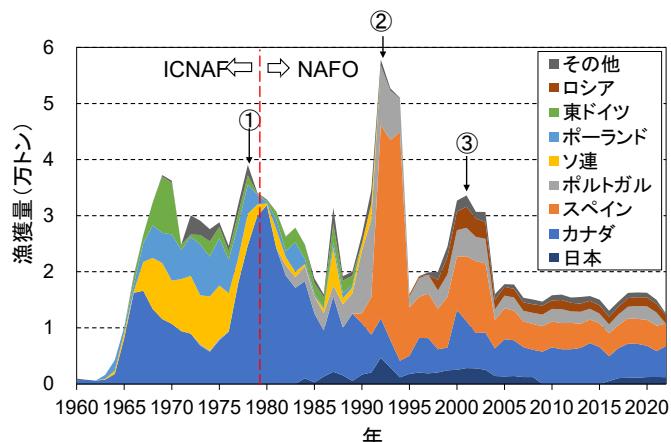
主な管理方策はMSEに基づく漁獲管理ルール(HCR)によりTACを決定している。2024年のTACは全体で15,153トン(日本割当1,151トン)。その他に、VME(脆弱な海洋生態系)保護のための禁漁海域設置、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制(30cm)、網目規制(130mm)等。

### カラスガレイ(北西大西洋)の資源の現況(要約表)

(注) NAFO条約海域(南系群)操業域(統計海域2+3KLMNO)の情報に基づく

NAFO海域における世界の漁獲量(最近5年間)	12,500~16,300トン 最近(2022)年:12,500トン 平均:15,253トン(2018~2022年)
我が国の漁獲量(最近5年間)	1,103~1,253トン 最近(2022)年:1,205トン 平均:1,177トン(2018~2022年)
資源評価の方法	統計的年齢別漁獲尾数モデル(SCAA)及び拡張型SCAA状態空間モデル(SSM)を用いた解析
資源の状態(資源評価結果)	神戸プロット黄色ゾーン 乱獲状態であるが( $B_{2019}/B_{MSY} = 0.6 \sim 0.68$ )、過剰漁獲ではない( $F_{2019}/F_{MSY} = 0.52 \sim 0.95$ ) なお、Bは漁獲対象(5~9歳)資源量を示す
管理目標	2037年までにB(漁獲対象資源)を $B_{MSY}$ レベルに回復(MSEの管理目標)
管理措置	MSEの枠組みで設定されたHCR、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制(30cm)、網目規制(130mm)、VMEの禁漁海域設置ほか
管理機関・関係機関	NAFO
最新の資源評価年	2020年
次回の資源評価年	2024年以降

\* NAFO条約海域の南系群(統計海域2+3KLMNO)に関する内容。2020年までのデータによる資源評価。



SCAAとSSMによる資源評価結果に基づく神戸プロット